

上田市文化財調査報告書第110集

市 内 遺 跡

平成21年度市内遺跡発掘調査報告書

2010.3

上 田 市
上田市教育委員会

上田市文化財調査報告書第110集

市 内 遺 跡

平成21年度市内遺跡発掘調査報告書

2010.3

上 田 市
上田市教育委員会

例 言

- 1 本書は長野県上田市における各種開発事業に伴う平成21年度市内遺跡発掘調査報告書である。なお、上田市は平成18年3月6日に上田市、丸子町、真田町、武石村が合併して発足した。そのため、現在、埋蔵文化財分布図の統合作業を進めているところであり、本文中の遺跡番号等は合併前のものを引き続いて使用している。
- 2 調査は国庫補助事業として上田市（上田市教育委員会事務局文化振興課文化財保護係）が実施した。調査期間は報告書刊行を含めて、平成21年4月1日から平成22年3月26日まで行った。
- 3 現地調査は文化振興課文化財保護係 中沢徳士・和根崎剛が行った。
- 4 試掘調査は主としてバックホーによるトレンチ調査を行った。バックホーの賃貸借・運転は、和農興・竹内和好が行った。
- 5 調査に係る資料は、上田市立信濃国分寺資料館に保管してある。
- 6 調査にあたって、開発施工主・担当課等の皆さんに、調査実施に係る調整等、格段のご協力をいただいた。
- 7 本調査に係る事務局の体制は、次のとおりである。

教育長	森 大和（4月28日退任）	文化振興課長	中部通男
	小山壽一（4月29日着任）	文化財保護係長	尾見智志
教育次長	小市邦夫	文化財保護係	中沢徳士・小林 伝・和根崎剛

- 8 本調査に係る作業分担は次のとおりである。
現地調査 中沢・和根崎
整理作業 和根崎・上原祐子・滝澤百合香・関大子・中村真理子・中村洋子
写真撮影 中沢・和根崎
- 9 本調査に際して多くの方々のご指導を賜った。ご芳名を記して、深く感謝の意を表したい。
（順不同・敬称略）川上 元・倉澤正幸、児玉卓文
- 10 本書の作成に係る引用・参考文献等は次のとおりである。
『上田市の原始・古代文化 埋蔵文化財分布調査報告書』上田市教育委員会 昭和52（1977）年
『上田市文化財分布図』上田市教育委員会 平成8（1996）年
『信大繊維学部敷地内遺跡調査概報』『長野県考古学会誌』9 小林幹男・川上 元 昭和45（1970）年
※掲載した遺跡の発掘調査の経過及び成果については、上田市文化財調査報告書を参考にした。
※文献引用箇所は原文のままであるため、現在の研究成果及び用語、見解とは異なる場合がある。

< 目 次 >

(1) 染屋台条里水田跡遺跡1 (遊技場建設計画)	1
(2) 八幡裏遺跡群道祖神遺跡 (工場移転解体計画)	3
(3) 中の沢遺跡 (耐震性防火水槽埋設工事)	6
(4) 常入遺跡群下町田遺跡1 (信州大学繊維学部ファイバー・イノベーション・インキュベーター棟建設工事) ...	8
(5) 常入遺跡群手筒山遺跡 (信州大学繊維学部手筒山地区再開発計画)	10
(6) 染屋台条里水田跡遺跡2 (市営多目的グラウンド改修工事)	13
(7) 染屋台条里水田跡遺跡3 (集合住宅建設工事)	15
(8) 染屋台条里水田跡遺跡4 (個人住宅建設工事)	17
(9) 常入遺跡群下町田遺跡2 (信州大学繊維学部先進植物工場研究センター建設工事)	19
(10) 国分寺周辺遺跡群 (個人住宅建設工事)	21
出土遺物	23
試掘調査地点位置図	24
染屋台条里水田跡遺跡における調査状況	25
信州大学繊維学部構内における遺跡調査状況	27
写真図版	29
報告書抄録	37

(1) 染屋台条里水田跡遺跡1〈西之手遺跡〉(遺跡番号 上田52)

1 調査地	上田市古里字西之手、東之手
2 原因	遊技場建設計画に伴う試掘調査(法第93条)
3 調査日	平成21年6月1日(月)～3日(水)
4 調査方法	0.4級バックホーで幅約1mのトレンチを9本掘削した
5 調査面積	14.162㎡(トレンチ515㎡)
6 調査担当者	中沢 徳士・和根崎 剛

遺跡の環境と経過

上田市には国史跡信濃国分寺跡が所在し、松本市域に国府が設置される以前は、国分寺に近接して国府が所在したのではないかと推定されている。信濃国府確認調査団等により、昭和58年から5次にわたって国府推定地の確認調査が行われ、関連する遺構は確認できなかったが、推定地の範囲を絞り込むなど、一定の成果をあげた。その後もいくつかの推定地付近で試掘調査を行ってきたが、国府跡の確認には至っていない。

当該地は信濃国府の推定地のひとつで、西之手、東之手と呼ばれる一帯である。調査対象地はほとんどが水田として利用されており、『上田市の原始・古代文化』によると、西之手遺跡では「弥生後期の箱清水式、中期から晩期の土師器、後期の須恵器などが出土している」という。かつて北側隣接地で発掘調査を行った際には、古墳時代の堅穴住居跡や掘立柱建物址群を検出している(上田市教委1998,1999)。なお、西之手遺跡は染屋台条里水田跡遺跡の範囲内に所在するため、便宜的に後者の名称で包蔵地の登録をしている。

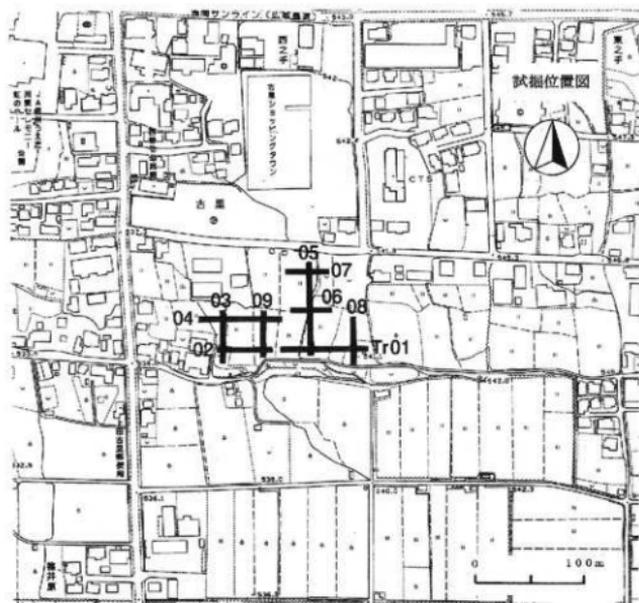
本試掘調査については、遊技場建設計画者から埋蔵文化財包蔵地の照会があったことに起因する。分布地図で照合した結果、本開発計画が包蔵地内工事に該当することが判明したため、市役所関連部署、地元自治会、地権者と調整を行ったうえ、事業者と保護協議を行った。その結果、地元自治会及び地権者の承諾を得たうえで、計画地の試掘調査を実施し、埋蔵文化財が発見された場合には再度協議することで合意した。

調査の結果

工事計画地において試掘調査を行ったところ、遺構・遺物は確認されなかった。

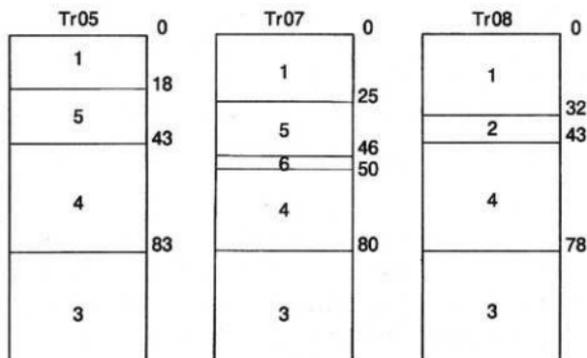
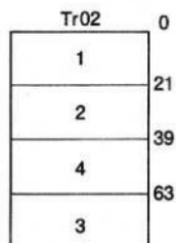
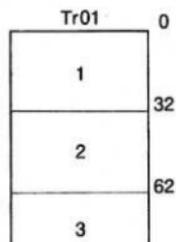
調査区内に1～9号トレンチ(Tr01～09)を設定した。最も浅いところで地下0.25m、深いところで地下0.30m付近に地山層を検出したが、遺構・遺物は確認できなかった。地山層の直上まで水田由来土が確認され、水田造成の際に遺構・遺物が失われてしまったものと考えられる。

以上の結果をふまえ、本発掘調査は必要ないものと判断した。



基本土層

(単位: cm)



- 1層: 耕作土
- 2層: 暗褐色土層
- 3層: 暗褐色土層
(地山)
- 4層: 暗赤褐色土層
- 5層: 褐色土層
- 6層: 溶脱層

第1図 染屋台条里水田跡遺跡1 (遊技場建設計画)

(2) 八幡裏遺跡群 道祖神遺跡 (市遺跡番号 上田64)

1 調査地	上田市緑ヶ丘一丁目1番7号
2 原因	工場移転解体計画 (法第93条)
3 調査日	平成20年7月26日(土)・28日(月)・29日(火)
4 調査方法	0.4級バックホーで幅約1mのトレンチを13本掘削した
5 調査面積	9,000㎡ (トレンチ504㎡)
6 調査担当者	中沢 徳士

遺跡の環境と経過

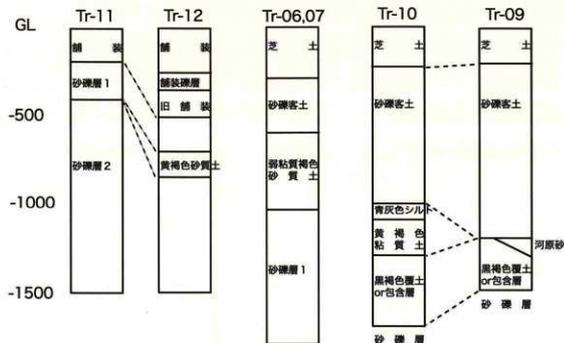
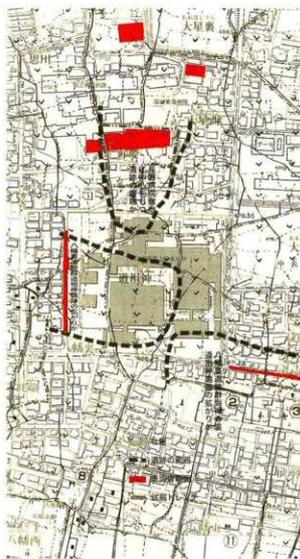
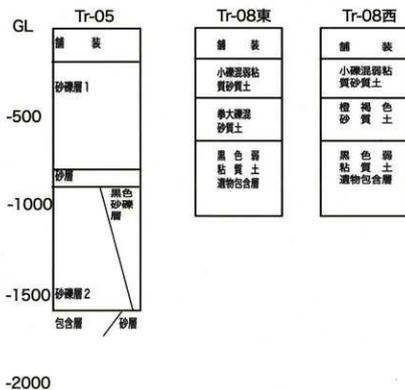
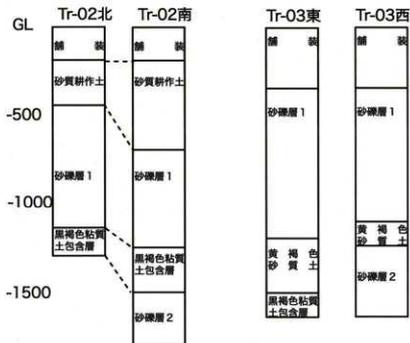
八幡裏遺跡群は太郎山南麓の黄金沢とその他の小河川により形成された扇状地端部に位置する。『上田市の原始・古代文化』によると、調査区域付近には、思川遺跡・大屋前遺跡・海善寺裏遺跡・新田遺跡・道祖神遺跡・八幡東遺跡・八幡裏遺跡が所在する。これまで、遺跡名は上田市文化財分布図に基づき「八幡裏遺跡」としていたが、出土遺物の内容等から遺跡群として捉えられるため、本報告以降「八幡裏遺跡群」と称することとする。調査区域のほとんどは周知の道祖神遺跡であるが、調査区北部は八幡裏遺跡の範囲となり、前者からは縄文土器や土師器の出土が知られている。また、八幡裏遺跡では病院や道路建設に伴う発掘調査が6次にわたって行われており、縄文時代から平安時代までの遺構・遺物が確認されている (上田市教委1995、1997、1998、1999a、1999b、2001)。

本試掘調査については、土地所有者から工場移転解体後の埋蔵文化財の保護措置について相談があったことに起因する。平成20年7月に、駐車場や緑地帯などで試掘調査を行った際には、住居跡と推定される遺構と土師器などが出土した (上田市教委2009c)。土地所有者との協議の結果、今回の調査は工場機能の移転が完了したため、前回の試掘調査で掘削できなかった、工場建物の間の通路等についてアスファルト舗装を剥いで実施することとし、調査の結果、遺構などが発見された場合には再度協議することで合意した。

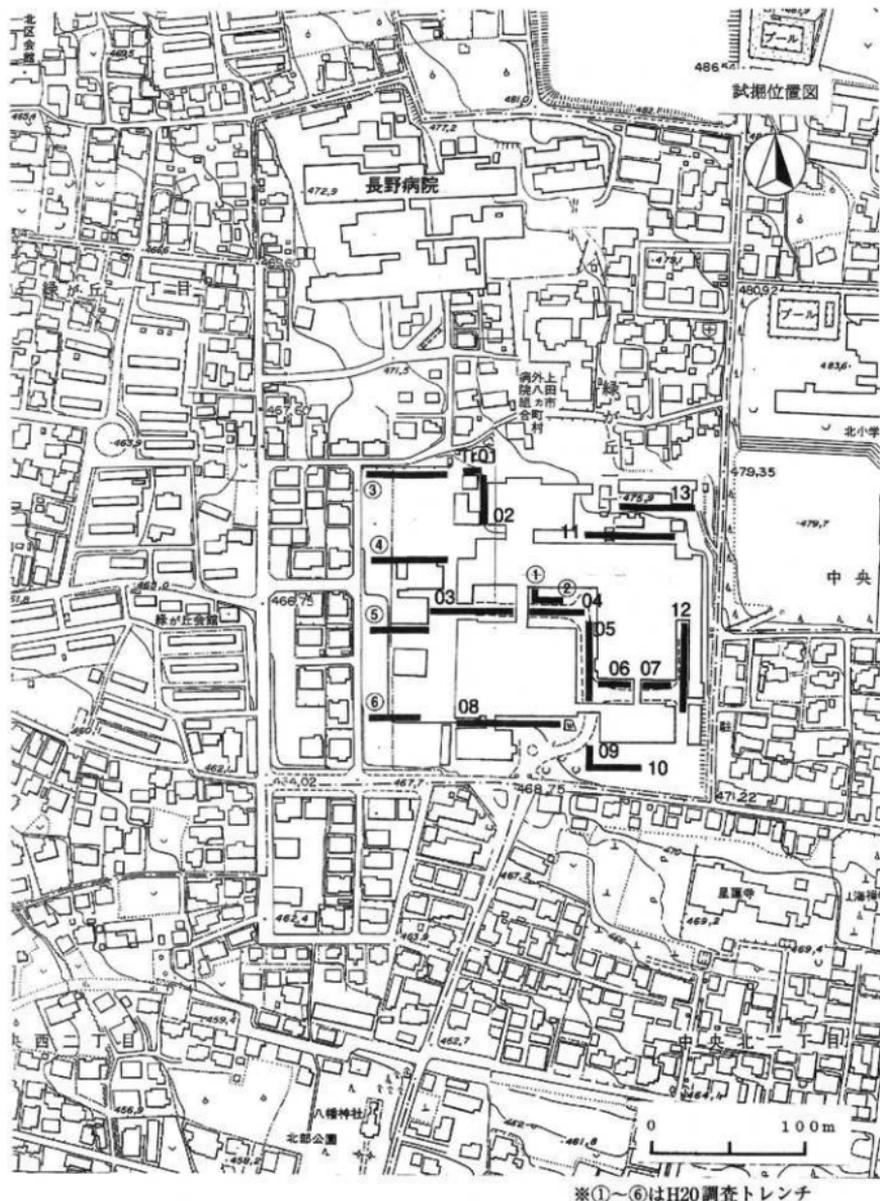
調査の結果

1～13号トレンチ (Tr01～13) を設定して調査を行った。調査区北部は旧地表面が最も削平されているが、Tr02の掘削の結果、地下1.2m前後に、前回の試掘調査で検出したものと同様の遺物包含層とみられる黒色土層が残っており、遺構と推定される黒色上の落ち込みを確認した。また、調査区の南部に設定したTr08では地下0.8m付近、Tr09～10では地下1.3m付近にやはり同様の黒色土層が残っている。他のトレンチではこうした黒色土層が存在しない。こうした状況は、戦時中に大きく切土をして作られた工場であるためと考えられるが、今回の調査で、工場建物が存在する一帯にも、一部に遺物包含層が残存していることが明らかになった。

以上の経過をふまえ、工場解体の際に改めて保護協議を実施し、発掘調査等の保護措置を講ずることをお願いして試掘調査を終了した。



第3図 八幡裏遺跡群 道祖神遺跡 (工場移転解体計画) その1



※①～⑥はH20調査トレンチ

第2図 八幡裏遺跡群 道祖神遺跡（工場移転解体計画） その2

(3) 中の沢遺跡 (市遺跡番号 上田321)

1 調査地	上田市小泉字中沢3097番地1先
2 原因	耐震性防火水槽埋設 (法第94条)
3 調査日	平成21年7月6日(月)
4 調査方法	0.2級バックホーで幅任意のトレンチを1本掘削した
5 調査面積	80㎡ (トレンチ30㎡)
6 調査担当者	中沢 徳上、和根崎 剛

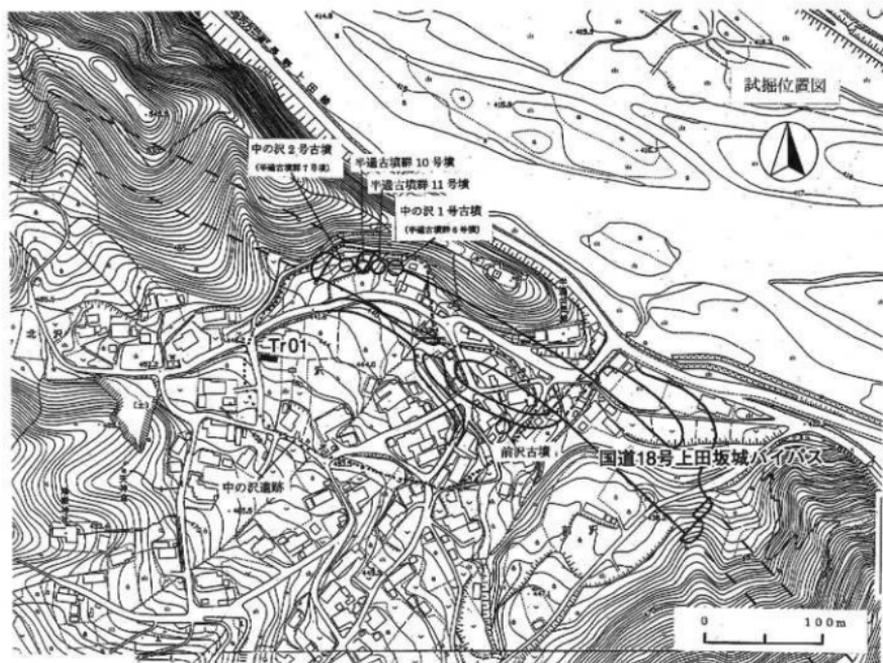
遺跡の環境と経過

中ノ沢遺跡は「上田市の原始・古代文化」によれば「後期の土師・須恵器を出土する」とされ、国道18号上田坂城バイパス改良工事に伴い、平成18・19年度に実施した発掘調査では、弥生後期～古墳初頭、古墳後期、平安時代の住居跡及び半過古墳群として捉えられる後期古墳3基等を検出し、古墳からは人骨をはじめ、ガラス小玉等の副葬品、住居跡からは土器や石器など、多くの遺物が出土した。また、千曲川に近接した場所では市内初の検出例となる縄文時代早期の押型文土器片が出土するなど、遺跡の新たな性格を知ることができた (上田市教委2009b)。

本件については、長野県教育委員会「平成20年度以降の公共事業に係る埋蔵文化財等の保護について (照会)」に基づく、上田地域広域連合消防本部上田南部消防署からの回答を確認したところ、包蔵地内に耐震性防火水槽を埋設する計画があることが判明したため、保護協議を実施した。その結果、防火水槽の設置が防災上やむを得ないものであることから、試掘調査を行って遺構・遺物が発見された場合には再度協議することで合意した。

調査の結果

防火水槽の埋設範囲を横断するように、1号トレンチ (Tr01) を設定して調査を行った。掘削を開始したところ、地下0.9m程まで埋土がされ、その下は地山層となることが判明した。トレンチ内からは遺構・遺物は発見されなかった。計画地が斜面に盛土をして平坦地としていることは調査前から推測されたが、試掘により地山層まで掘削された上に盛土がされたことを確認した。隣接する国道18号上田坂城バイパスの道路敷では、発掘調査の際に耕作が原因と思われる地山層の削平が認められ、遺構が破壊されている状況を確認しており (上田市教委2009b)、計画地も同様であると思われる。ただし、周辺には土師器等の小片が散布しており、今後も注意する必要がある。



基本土層

(単位: cm)

1	0	
2	5	1層: アスファルト
3	18	2層: 埋土1 (碎石)
4	30	3層: 埋土2 (砂混碎石)
5	45	4層: 埋土3
6	60	5層: 埋土4
7	65	6層: 埋土5
8	75	7層: 埋土6
9	95	8層: 埋土7
		9層: 暗褐色土 (地山)

第4図 中の沢遺跡 (耐震性防火水槽埋設工事)

(4) 常入遺跡群 下町田遺跡1 (市遺跡番号 上田57)

1 調査地	上田市常田三丁目15番1号
2 原因	信州大学繊維学部ファイバー・イノベーション・インキュベーター棟建設(法第93条)
3 調査日	平成21年8月27日(木)
4 調査方法	0.2級バックホーで幅1mのトレンチを2本掘削した
5 調査面積	1,308㎡(トレンチ45㎡)
6 調査担当者	和根崎 剛

遺跡の環境と経過

常入遺跡群は常田池の周辺に広がる遺跡群で、『上田市の原始・古代文化』には、「信州大学繊維学部敷地の中央部から、常田池の南方にかけて、東西およそ650m、南北およそ400mの広範囲な地籍に、繊維学部敷地から常田池の西方にかけて、北部で下町田・上町田の2遺跡、中央部で中村・西町田・東町田の3遺跡、段丘端に接する南部で手筒山・藤ノ森の2遺跡」があり、「いずれも弥生後期の箱清水式土器、前期から晩期にわたる土師・須恵器を出し、一体の遺跡と思われる」とある。

今回の試掘調査は、平成21年2月の試掘調査の際に蚕室棟があったために掘削できなかった箇所について実施した。その際には、畑として利用されていた部分を調査したが、住居跡と推定される遺構から弥生時代後期の土器片が出土した(上田市教委2009c)。また、計画地は平成11、12、15年に発掘調査をした区域(上田市教委 2000、2003、2004)に挟まれており、その際に弥生時代後期の集落跡が検出されていることから、関連する遺構・遺物の出土が予想された。

本試掘調査については、第2次調査として、昭和43年に計画地に移築された蚕室棟が解体されたため、建物直下の遺構の残存状況を確認するために実施した。その結果、半地下構造物が存在した箇所以外では、住居跡等の遺構が良好に残存していることが判明した。

信州大学との協議の結果、平成21年10月から発掘調査を実施し、記録保存を図ることで合意した。

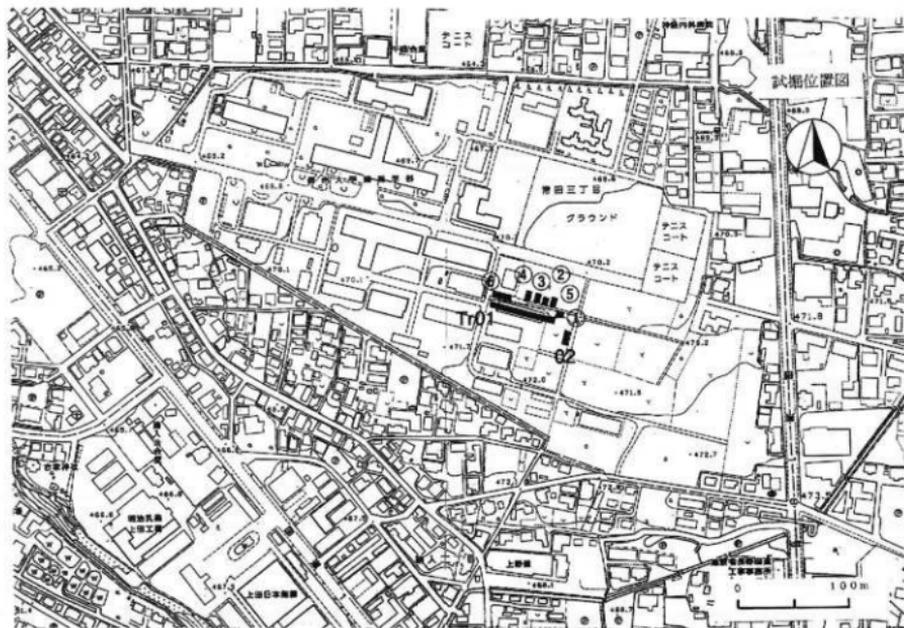
調査の結果

調査区内に1～2号トレンチ(Tr01～02)を設定して調査を行った。西トレンチから住居跡や土坑と推定される遺構と、箱清水式土器の破片が出土した。遺構検出面まで建物基礎が及んでいなかったため、比較的、遺構の遺存度は良いものと推定された。

本発掘調査では弥生時代後期の住居跡や土坑が検出され、多くの土器が出土した。なお、発掘調査報告書は平成23年3月刊行を予定している。

出土遺物(埋蔵物発見届:21文第241号)

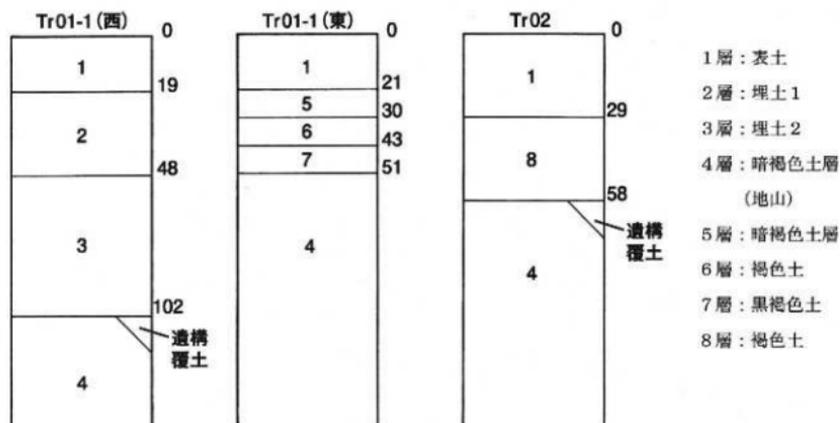
トレンチ内から弥生時代後期の箱清水式土器(第13図-1、2)などが出土した。



※①～⑥はH20調査トレンチ

基本土層

(単位: cm)



第5図 常入遺跡群 下町田遺跡1 (信大繊維学部ファイバー・イノベーション・インキュベーター棟建設工事)

(5) 常入遺跡群 手筒山遺跡 (市遺跡番号 上III57)

1 調査地	上田市踏入二丁目 (法第92条)
2 原因	信州大学繊維学部手筒山地区再開発計画
3 調査日	平成21年9月8日(火)
4 調査方法	0.2級バックホーで幅1mのトレンチを6本掘削した
5 調査面積	20,000㎡ (トレンチ106㎡)
6 調査担当者	和根崎 剛

遺跡の環境と経過

常入遺跡群の環境・概要については、前述したため省略する。

今回の試掘調査は、信州大学繊維学部手筒山地区再開発計画に基づき実施した。昭和41年に、上田小県誌編纂に係る発掘調査が北側に隣接する桑畑 (西町川遺跡) で実施された際には、古墳時代中期～後期の住居跡2軒と多量の完形土器が検出されており (小林・川上1970)、調査区内においても同様の遺構・遺物の出土が予想された。

本試掘調査については、信州大学繊維学部から手筒山地区再開発計画と埋蔵文化財の保護について相談があったため、ただちに保護協議を行った。その結果、試掘調査を行って遺構・遺物が確認された場合には、その保護について改めて協議を行うことで合意した。

調査箇所には上下水道管やガス管が布設され、手筒山宿舍が使用中だったため、トレンチ調査は桑園や建物の隙間を選んで実施した。

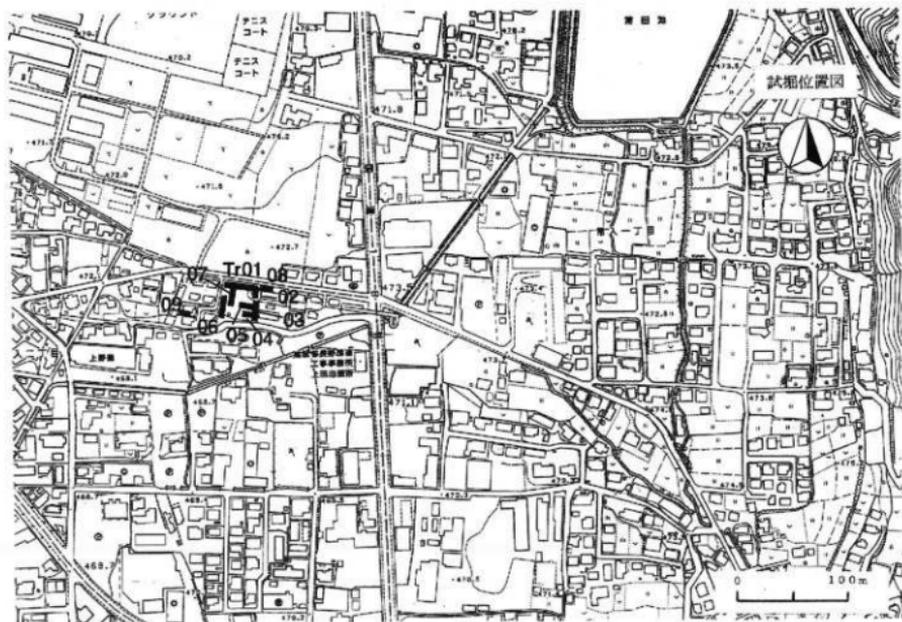
調査の結果

本試掘調査については、計画地が段丘端部にあるため、遺構の所在と分布範囲を確認すること、既にほとんどの区域で建物や上下水道管、ガス管が埋設されていることから、遺構・遺物の現況を確認するため、1～9号トレンチ (Tr01～09) を設定して調査を行った。唯一、桑畑として残っていた箇所に設定したTr01、02から住居跡や土坑と推定される遺構と、箱清水式土器、古墳時代初頭の土師器の破片が出土した。桑畑の北部分では遺構・遺物の遺存状態は良好であるが、遺構が存在する範囲は北側の道路境から南に8m程度南下した範囲までであり、調査区の南部分は段丘端に埋土をして平坦地を形成していることから、この付近が常入遺跡群の南限と推定される。

なお、再開発予定地には、木造建物が複数棟残っており、これらの解体後に再度、保護措置を講ずる必要がある。実施設計が完了した時点で、改めて協議をしていただきたい旨を信州大学に依頼して調査を終了した。

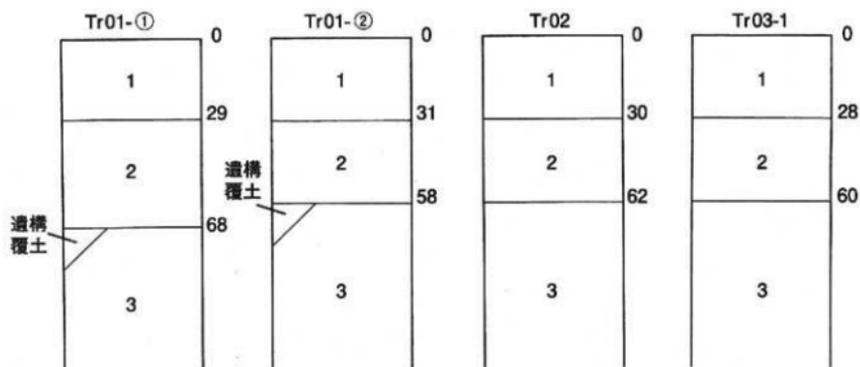
出土遺物 (埋蔵物発見届：21文第255号)

トレンチ内から弥生時代後期の箱清水式土器、古墳時代初頭の土師器の破片 (第13図-4～9) などが出土した。

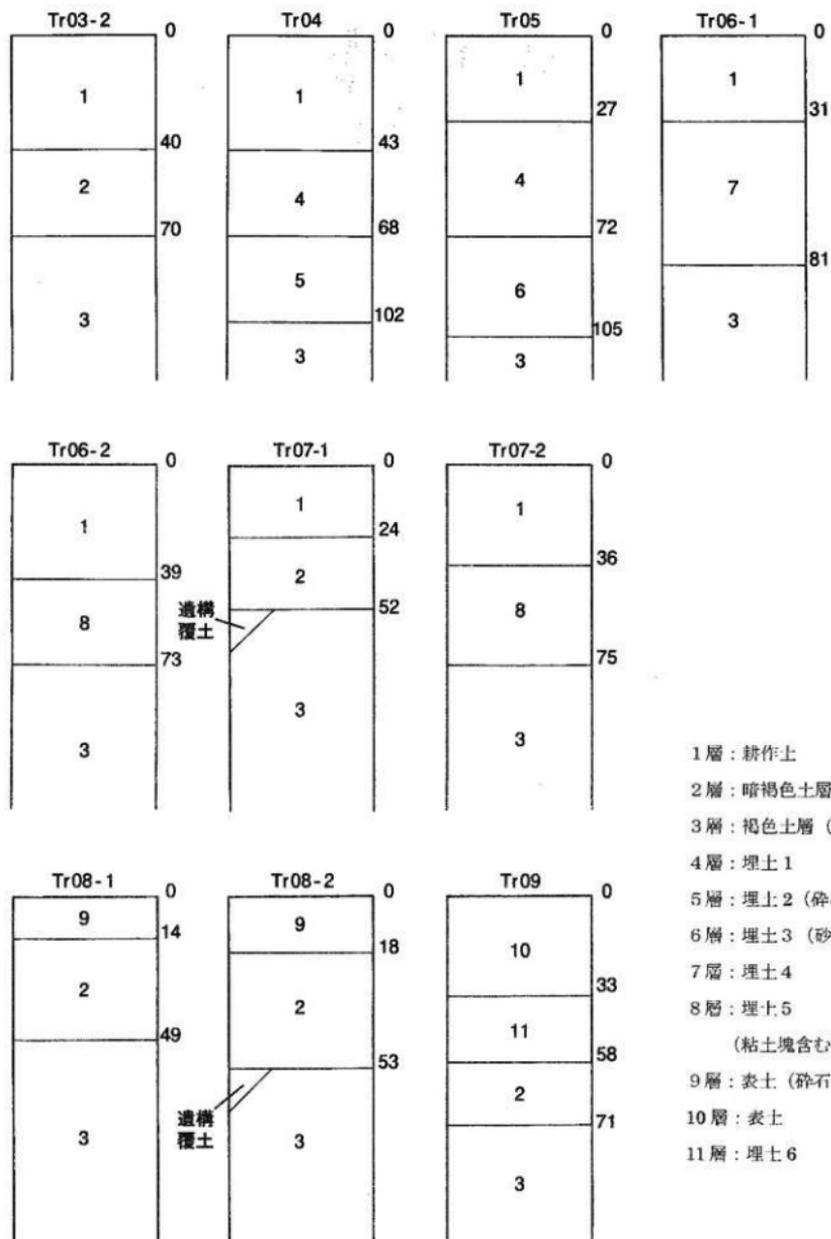


基本土層

(単位：cm)



第6図 常入遺跡群 手筒山遺跡 (信大繊維学部手筒山地区再開発計画) その1



第7図 常入遺跡群 手筒山遺跡 (信大繊維学部手筒山地区再開発計画) その2

(6) 染屋台条里水田跡遺跡2 (市遺跡番号 上田52)

1 調査地	上田市古里字大畑1993-1
2 原因	市営染屋台グラウンドの改修工事(法第94条)
3 調査日	平成21年9月17日(休)
4 調査方法	0.4級バックホーで幅約1mのトレンチを3本掘削した
5 調査面積	21,000㎡(トレンチ205㎡)
6 調査担当者	和根崎 剛

遺跡の環境と経過

染屋台条里水田跡遺跡は、上田市の北東部で千曲川と神川によって形成された河岸段丘上に位置する。この台地は、通称染屋台と呼ばれている。上田市の遺跡分布図では台地全体が条里水田跡として括られているが、一部を除いて詳細な遺跡分布調査はなされていない。しかしながら、今までも幾つかの遺跡が試掘調査等によって確認されており、台地上の遺跡の状況も解明されつつある(第15図・表1)。なお、隣接地は大畑遺跡として発掘調査が行われており、中世の遺構・遺物が検出されている(上田市教委1996)。

計画地は旧県営球場であったが、上田市に譲渡され、市営染屋台グラウンドとして利用されていた。

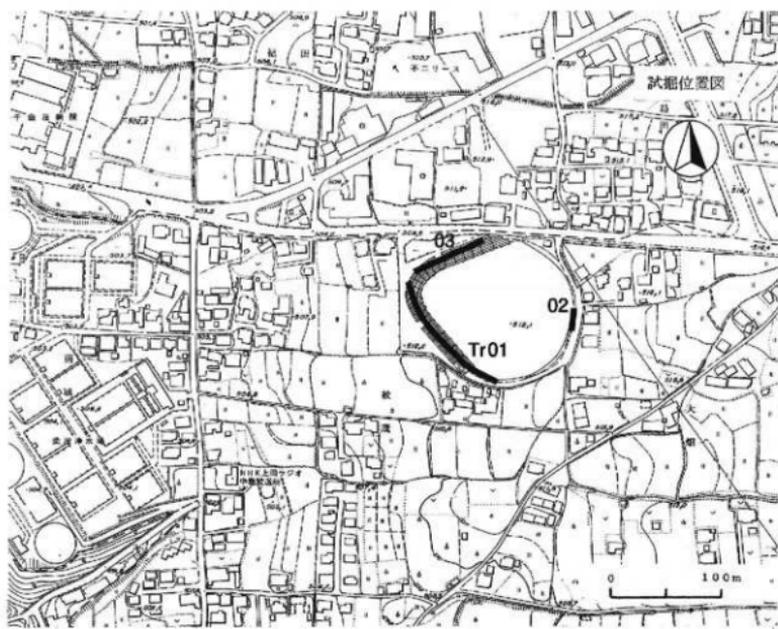
本件については、長野県教育委員会「平成21年度以降の公共事業に係る埋蔵文化財等の保護について(照会)」に基づき、上田市教育委員会体育課からの回答を確認したところ、計画地が埋蔵文化財包蔵地内に所在することが判明し、ただちに保護協議を行った。その結果、試掘調査を実施し、遺構・遺物が発見された場合には再度協議することで合意した。

調査の結果

バックネット、観客席が撤去された時点で試掘調査を行ったが、遺構・遺物等は確認できなかった。なお、グラウンド面はそのまま利用する計画であったため、現地での遺構確認状況を踏まえて試掘を実施するか否かを判断することとした。

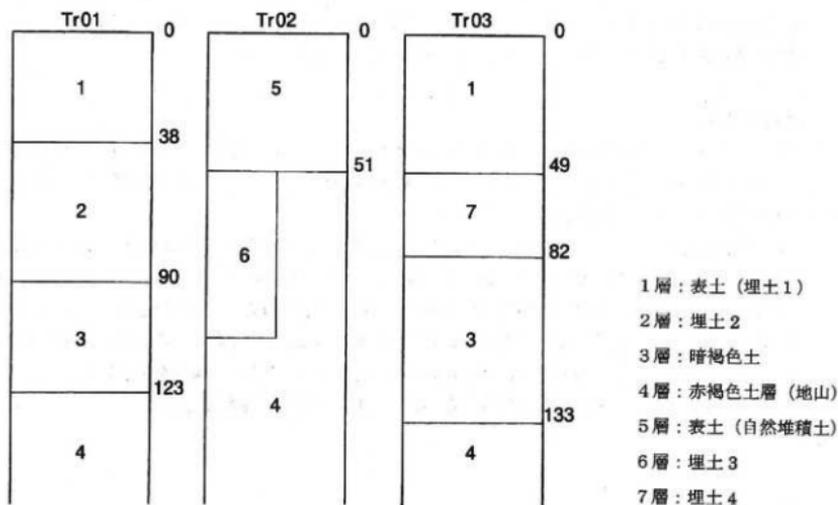
調査区内に1～3号トレンチ(T r 01～03)を設定した。調査区東側では0.9m、西側では1.3m程度掘り下げると地山層が確認できたが、水田由来土の上に、厚い埋土層がみられた。グラウンド造成の際に、西に向かって傾斜する地形上に造られていた水田を埋め立て、平坦地を造ったものと推定される。このように、調査によってグラウンド周辺は大規模な盛土がされていることが明らかになった。こうした状況から、グラウンド面はトレンチを設定しないこととし、調査を終了した。

以上の経過をふまえ、発掘調査は実施しないこととし、試掘調査を終了した。



基本土層

(単位: cm)



第8図 染屋台条里水田跡遺跡2 (市営多目的グラウンド改修工事)

(7) 柴屋台条里水田跡遺跡3 (市遺跡番号 上田52)

1 調査地	上田市上野字大和町14-1 ほか
2 原因	集合住宅建設
3 調査日	平成21年10月1日(木)
4 調査方法	0.2級バックホーで幅1mのトレンチを3本掘削した
5 調査面積	892㎡ (トレンチ39㎡)
6 調査担当者	和根崎 剛

遺跡の環境と経過

遺跡の環境・概要については、前述したため省略する。

今回の試掘調査地は、平成2(1990)年に発掘調査した柳沢遺跡(上田市遺跡番号 上田445)に近接しており、古墳時代の遺構・遺物の出土が予想された。また、平成19年度に隣接地で試掘調査を実施した際には、僅かに遺構と古墳時代の遺物を確認している。

本件については、開発事業者から、包蔵地内で集合住宅建設をしたい旨の相談があったため、ただちに保護協議を行った。その結果、試掘調査を実施し、遺構・遺物が発見された場合には再度協議することで合意した。

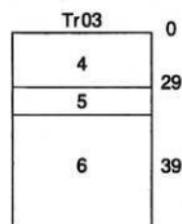
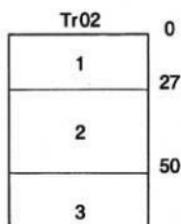
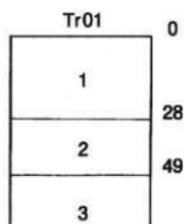
調査の結果

調査区内に1～3号トレンチ(T r 01～03)を設定して調査を行った。木造住宅を解体した時点で試掘を行ったが、既に地下は水田由来の粘土層まで建物基礎による掘削がされており、建物が無かった部分についても、遺構・遺物は確認できなかった。



基本土層

(単位：cm)



- 1層：表土（埋土1）
- 2層：暗褐色土層
- 3層：赤褐色土層（地山）
- 4層：表土（埋土2）
- 5層：埋土3
- 6層：黄褐色土層（地山）

第9図 染屋台条里水田跡遺跡3（集合住宅建設工事）

(8) 染屋台条里水田跡遺跡4 (市遺跡番号 上田52)

1 調査地	上田市住吉字鶴巻30-5
2 原因	個人住宅の新築(法第93条)
3 調査日	平成21年10月29日(木)
4 調査方法	0.2級バックホーで幅約1mのトレンチを1本掘削した
5 調査面積	180㎡(トレンチ3㎡)
6 調査担当者	中沢 徳士

遺跡の環境と経過

遺跡の環境・概要については、前述したため省略する。

本件については、施工業者から埋蔵文化財包蔵地の所在について問い合わせがあり、分布地図を確認したところ、計画地が埋蔵文化財包蔵地内に所在することが判明し、ただちに保護協議を行った。その結果、試掘調査を実施し、遺構・遺物が発見された場合には再度協議することで合意した。

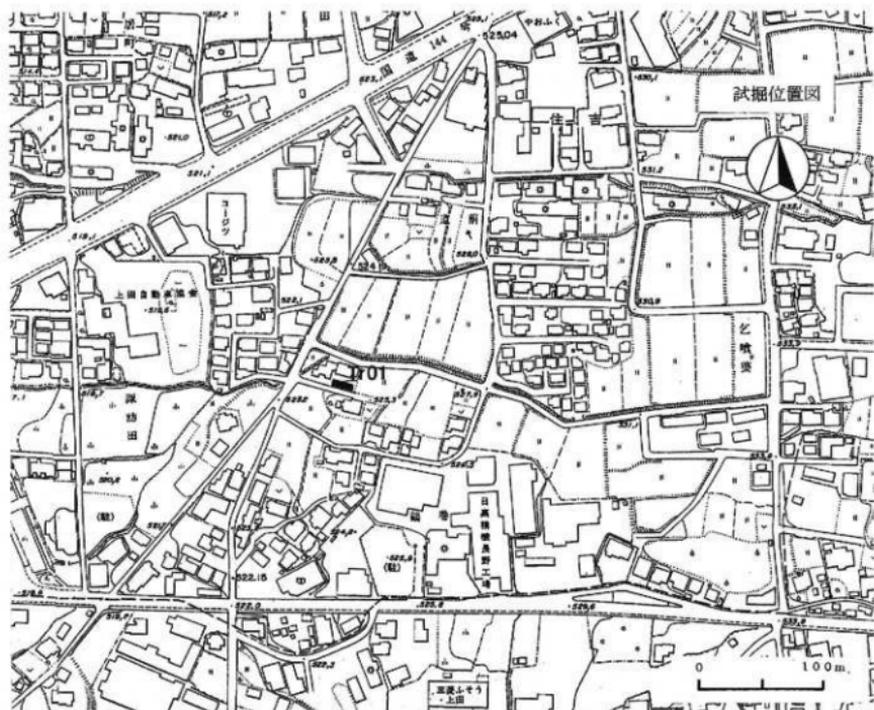
調査の結果

関係者立会いのもと試掘調査を行ったが、遺構・遺物等は確認できなかった。

染屋台条里水田跡遺跡では、これまでに数多くの発掘調査・試掘調査を実施してきたが、今回の調査対象地付近はこれまでに調査があまり行われていなかったため、土層の堆積状況についてのデータがほとんど知られていない場所であった。

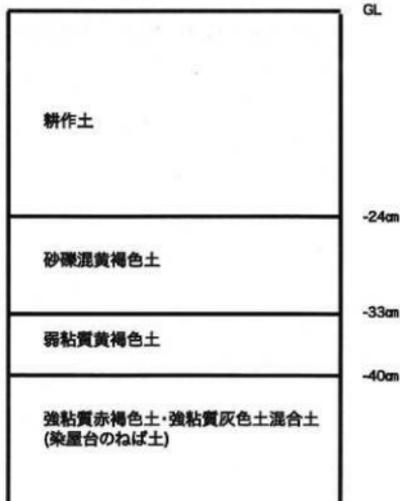
調査区内に1号トレンチ(T r 01)を設定した。0.4m程度掘り下げると、地山である染屋台特有の粘土層が確認された。遺構・遺物は確認できなかった。

以上の経過をふまえ、発掘調査は実施しないこととし、試掘調査を終了した。



基本土層

(単位: cm)



第10図 染屋台条里水田跡遺跡4 (個人住宅建設工事)

(9) 常入遺跡群 下町田遺跡2 (市遺跡番号 上B157)

1 調査地	上田市常田三丁目15番1号
2 原因	信州大学繊維学部先進植物工場研究センター建設 (法第93条)
3 調査日	平成21年12月5日(土)
4 調査方法	0.2級バックホーで幅1mのトレンチを3本掘削した
5 調査面積	400㎡ (トレンチ72㎡)
6 調査担当者	和根崎 剛

遺跡の環境と経過

遺跡の環境・概要については、前述したため省略する。

今回の試掘調査は、信州大学繊維学部先進植物工場研究センターの新築計画に基づき実施した。予定地は平成15年に発掘調査をした区域に隣接しており、その際に弥生時代後期の集落跡が検出されている(上田市教委2004)ことから、関連する遺構・遺物の出土が予想された。なお、計画地は試掘直前まで桑畑として利用されていた。

本試掘調査については、信州大学から上記施設の新築計画と埋蔵文化財の保護について相談があったため、ただちに保護協議を行った。その結果、試掘調査を行い、遺構・遺物が確認された場合には改めて協議を行うことで合意した。

試掘調査の結果、住居跡等の遺構が良好に残存していることが判明した。信州大学との協議の結果、平成21年12月から発掘調査を実施し、記録保存を図ることで合意した。

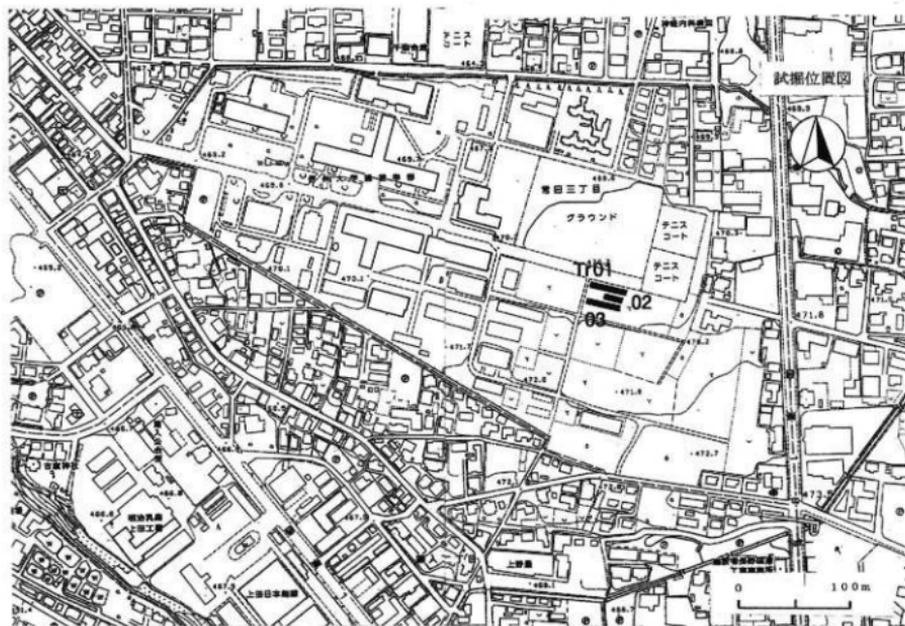
調査の結果

調査区内に1～3号トレンチ(T r 01～03)を設定して調査を行った。どのトレンチも地下0.7m程度に地山が認められ、T r 01、02から住居跡や土坑と推定される遺構と、箱清水式土器の破片が出土した。今回、試掘をした区域は桑畑として利用され、部分的に深耕、あるいは桑根による攪乱を受けていたが、検出面の精査の結果、遺構は比較的良く残っているものと推定された。

本発掘調査では弥生時代後期や古墳時代初頭の住居跡、古墳時代中期の土坑が検出され、多くの土器が出土した。なお、発掘調査報告書は平成23年3月の刊行を予定している。

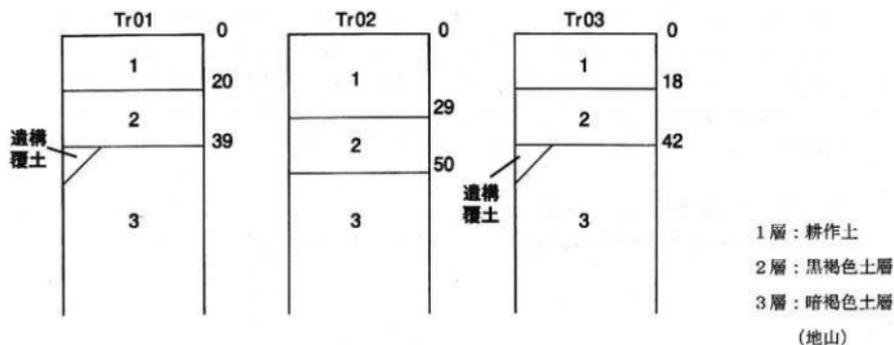
出土遺物(埋蔵物発見届:21文第412号)

トレンチ内から弥生時代後期の箱清水式土器(第13図-3)などが出土した。



基本土層

(単位: cm)



第11図 常入遺跡群 下町田遺跡2 (信大繊維学部先進植物工場研究センター建設工事)

(10) 国分寺周辺遺跡群 (市遺跡番号 上H56)

1 調査地	上田市国分字浦沖1214-1
2 原因	個人住宅の建設 (法第93条)
3 調査日	平成21年12月24日(木)
4 調査方法	0.2級バックホーで幅1mのトレンチを2本掘削した
5 調査面積	462㎡ (トレンチ90㎡)
6 調査担当者	中沢 徳士

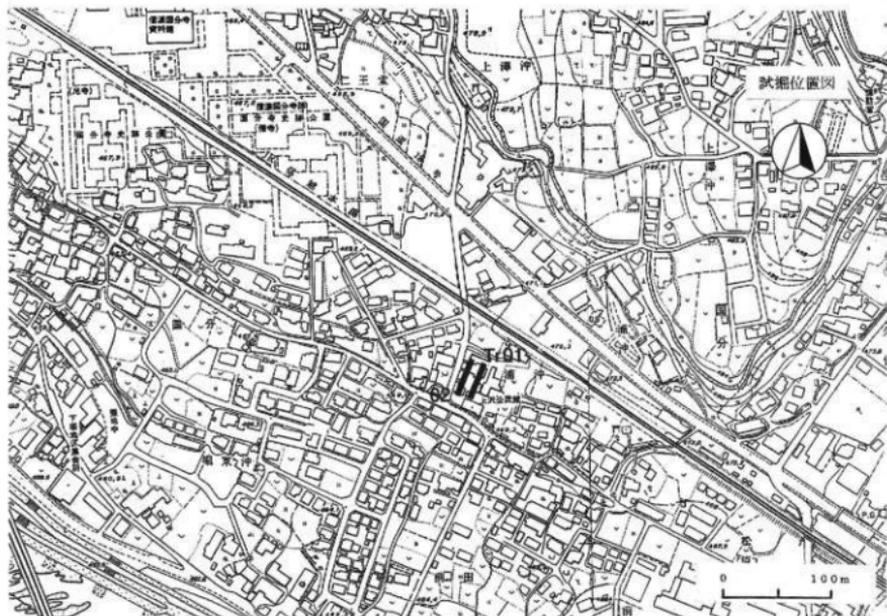
遺跡の環境と経過

国分寺周辺遺跡群は信濃国分寺跡の周囲に広がる遺跡群で、『上田市の原始・古代文化』に記載の、前田・浦沖・堀・仁王堂・明神前・西沖遺跡から構成される。今回の調査対象地はこのうちの仁王堂遺跡の範囲内と推定され、同書によれば「分布範囲はおよそ40,000㎡におよぶ広大な遺跡で、弥生後期の箱消水式と、前期から晩期にわたる土師器、後期の須恵器を出土」という。また、しなの鉄道・信濃国分寺駅駅前整備事業に伴って平成12年10月から実施した発掘調査では、隣接する浦沖遺跡を含め、縄文時代、弥生時代後期、古墳時代、奈良時代、平安時代の遺構・遺物が出土した。本試掘調査地は駅舎南側に隣接するため、同様の遺構・遺物の出土が予想された。

調査の結果

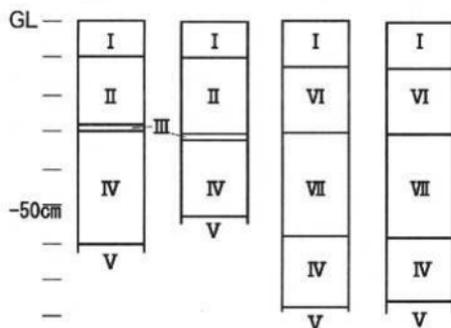
調査地は、僧寺築地ラインに近いこともあり、遺構確認のための試掘調査を行い、国分寺跡に直接結びつく遺構等が確認されない場合は、申請にあるとおり、盛土による遺構保護を図ったうえで工事を許可し、国分寺跡に結びつく遺構等が確認された場合は改めて協議するというので、事前の確認調査を実施したものである。

調査は、0.2バックホーにより調査地に2本のトレンチを入れて行った。その結果、トレンチ内に住居址とも推定されるプランが検出されたが、遺物は発見されなかった。奈良時代以降の国分寺存続期の遺構・遺物は皆無であった。なお、開発事業主の協力により、盛土をすることで遺構まで掘削が及ばないことから、本発掘調査は実施しないこととした。

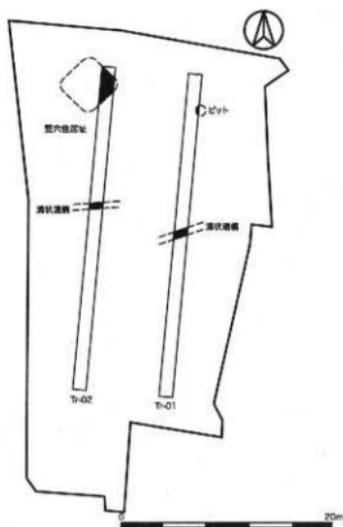


基本土層

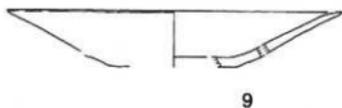
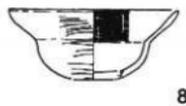
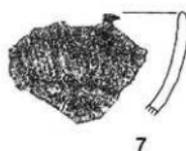
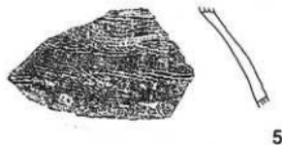
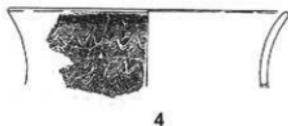
(単位: cm)



- I-攪乱された表土層
- II-弱粘質の客土層
- III-鉄分の溶脱層
- IV-黒褐色弱粘質砂質土層
- V-砂混じり弱粘質橙褐色土層(遺構検出面)
- VI-灰褐色土層
- VII-橙灰色砂質土層



第 12 図 国分寺周辺遺跡群 (個人住宅建設工事)



1、2：常入遺跡群下町田遺跡 1

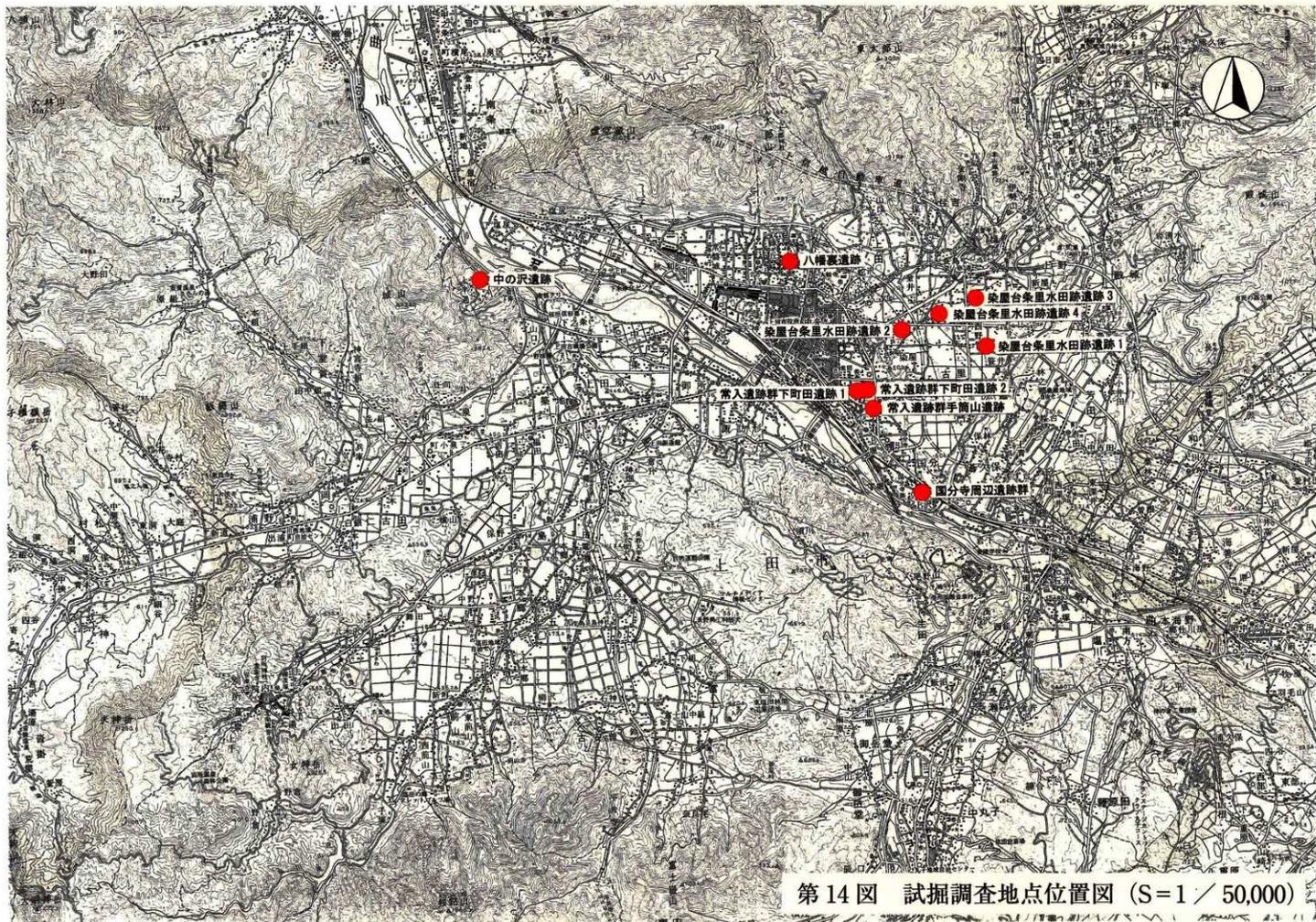
3：常入遺跡群下町田遺跡 2

4~9：常入遺跡群手筒山遺跡

(5~7：S=1/3)

(1~4、8~9：S=1/4)

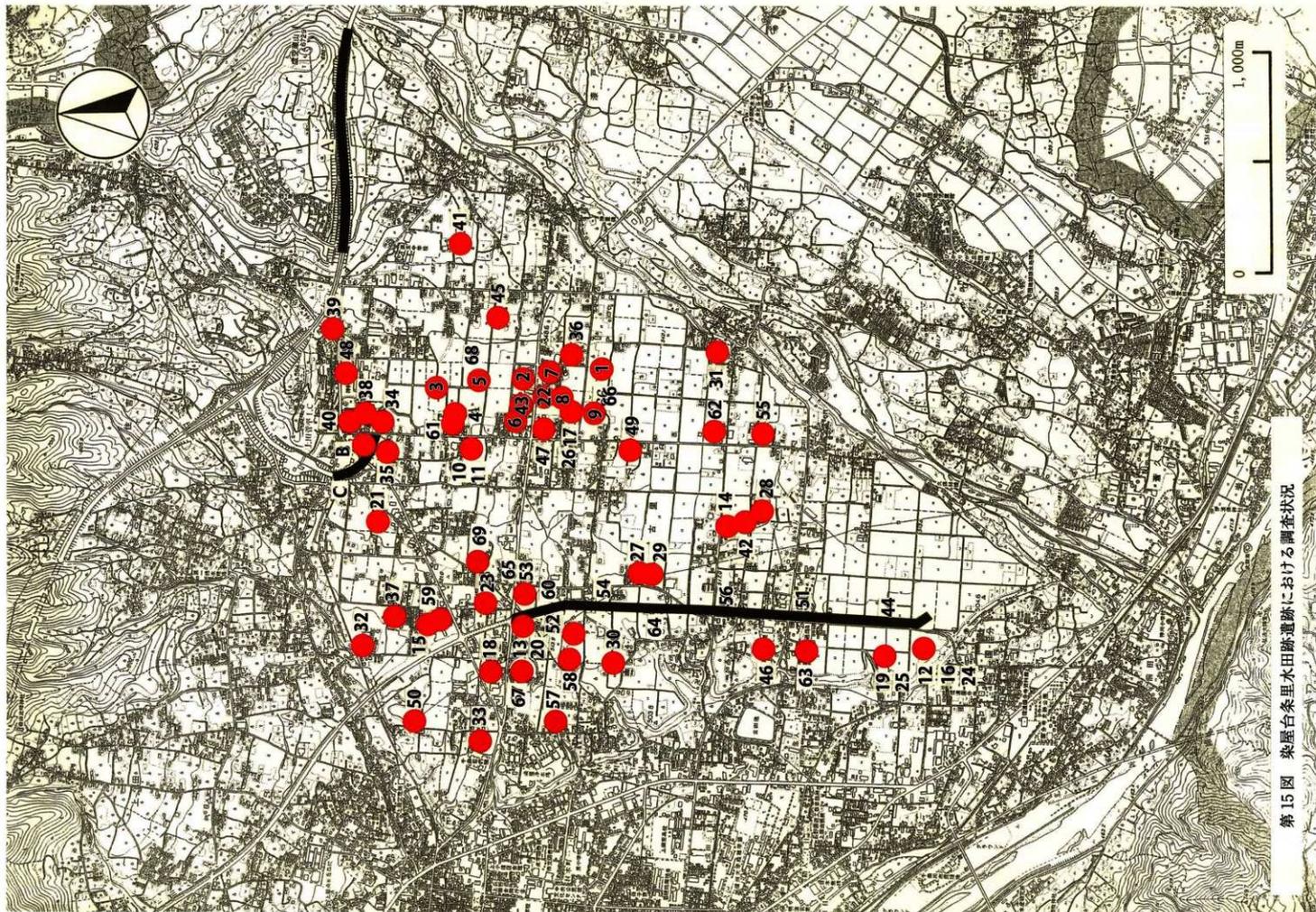
第13図 試掘調査出土遺物



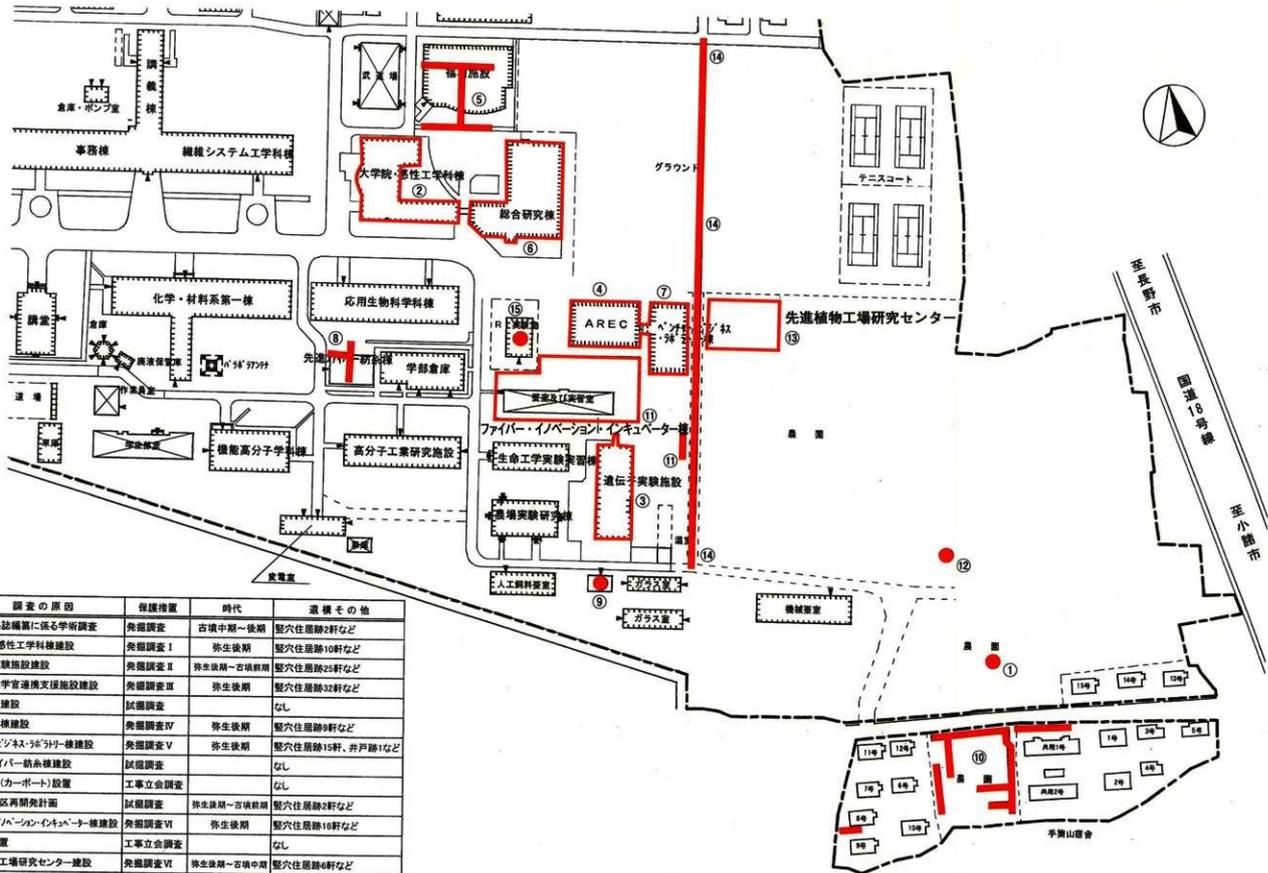
No.	年度	遺跡名	調査結果	備考	No.	年度	遺跡名	調査結果	備考
1	S58	国府指定地跡調査Ⅰ(※1)	古墳後期の遺構・遺物		38		染屋台条里水田跡遺跡1	なし	
2	S59	国府指定地跡調査Ⅱ	西之手遺跡		39	H15	染屋台条里水田跡遺跡2	なし	
3	S60	国府指定地跡調査Ⅲ・A地点	外生・石垣跡および後部の土層片		40		染屋台条里水田跡遺跡3	なし	
4	S60	国府指定地跡調査Ⅲ・B地点	中世初期の陶器破片		41	H16	染屋台条里水田跡遺跡1	なし	
5	S61	国府指定地跡調査Ⅳ	なし		42		染屋台条里水田跡遺跡2	なし	
6	S62	国府指定地跡調査Ⅴ・B地点	古墳後期の遺物		43		染屋台条里水田跡遺跡2	弥生前期・古墳後期の土層片	土層片を2期1事跡と
7	S62	国府指定地跡調査Ⅴ・D地点	古墳後期の遺物		44		染屋台条里水田跡遺跡3	なし	
8	S62	国府指定地跡調査Ⅴ・E地点	古墳後期の遺物		45		染屋台条里水田跡遺跡4	土層片	
9	S62	国府指定地跡調査Ⅴ・G地点	なし		46	H17	西之手遺跡	古墳時代の土層	
10	H2	郷町遺跡	古土層の遺構・遺物		47		染屋台条里水田跡遺跡5	なし	
11	H4	神川遺跡	遺構	10と同じ遺跡	48		染屋台条里水田跡遺跡6	なし	
12	H6	染屋台条里水田跡遺跡	遺構・遺物等確認	古墳遺跡として調査	49		染屋台条里水田跡遺跡7	なし	
13		染屋台条里水田跡遺跡	遺構・遺物等確認	大塚遺跡として調査	50		染屋台条里水田跡遺跡1	なし	
14	H7	染屋台条里水田跡遺跡2	なし		51		染屋台条里水田跡遺跡2	なし	
15		染屋台条里水田跡遺跡3	なし		52		染屋台条里水田跡遺跡3	なし	
16	S69	染屋台条里水田跡遺跡4	遺構・遺物等確認	古墳遺跡として調査	53		染屋台条里水田跡遺跡4	なし	
17		西之手遺跡	遺構・遺物等確認	西之手遺跡として調査	54	H18	染屋台条里水田跡遺跡5	なし	
18	H8	染屋台条里水田跡遺跡	遺構・遺物等確認	西之手遺跡として調査	55		染屋台条里水田跡遺跡6	なし	
19		上村遺跡	遺構・遺物等確認	上村遺跡として調査	56		染屋台条里水田跡遺跡1	なし	
20		大塚遺跡	中世前期の遺構・遺物	12と同じ遺跡	57		染屋台条里水田跡遺跡2	なし	
21		染屋台条里水田跡遺跡1	遺構・遺物等確認	西之手遺跡	58		染屋台条里水田跡遺跡3	なし	
22	H9	染屋台条里水田跡遺跡Ⅱ	遺構・遺物等確認	西之手遺跡	59		染屋台条里水田跡遺跡4	なし	
23		染屋台条里水田跡遺跡Ⅲ	なし		60	H19	染屋台条里水田跡遺跡5	なし	
24		古墳遺跡	平安後期の遺構・遺物	19・18と同じ遺跡	61		染屋台条里水田跡遺跡6	なし	
25	H10	上村遺跡	平安後期・中世の遺構・遺物	19と同じ遺跡	62		染屋台条里水田跡遺跡7	なし	
26		西之手遺跡	古墳中期～後期の遺構・遺物	17・22と同じ遺跡	63		染屋台条里水田跡遺跡8	なし	
27		古墳遺跡	なし		64		染屋台条里水田跡遺跡1	なし	
28		染屋台条里水田跡遺跡(1)	なし		65	H20	染屋台条里水田跡遺跡2	なし	
29	H12	染屋台条里水田跡遺跡(2)	なし		66		染屋台条里水田跡遺跡3	なし	
30		染屋台条里水田跡遺跡(3)	なし		67	H21	染屋台条里水田跡遺跡4	なし	
31	H13	染屋台条里水田跡遺跡	なし		68		染屋台条里水田跡遺跡5	なし	
32		染屋台条里水田跡遺跡	なし		69		染屋台条里水田跡遺跡6	なし	
33		染屋台条里水田跡遺跡	なし		A	H5	染屋台条里水田跡遺跡	なし	上村遺跡を3期1事跡として調査
34		染屋台条里水田跡遺跡	なし		B		染屋台条里水田跡遺跡	なし	
35	H14	染屋台条里水田跡遺跡	なし		C	H6	染屋台条里水田跡遺跡	なし	
36		染屋台条里水田跡遺跡	なし					なし	
37		染屋台条里水田跡遺跡	なし					なし	

※1 「割地の信濃国府跡推定地跡調査」の略。以下同じ。
(報告書等で確認できる調査について記載した。なお、参考にした報告書名は省いた。)

表1 染屋台条里水田跡遺跡における調査状況



第15図 染屋台桑里水田跡遺跡における調査状況



実施年月	調査の理由	保護措置	時代	遺構その他
① S41.10	上田小泉社議案に係る学術調査	発掘調査	古墳中期～後期	竪穴住居跡2軒など
② H8.3 ~ H8.4	大学院・感性工学科棟建設	発掘調査Ⅰ	弥生後期	竪穴住居跡10軒など
③ H11.4 ~ H11.6	遺伝子実験施設建設	発掘調査Ⅱ	弥生後期～古墳前期	竪穴住居跡20軒など
④ H13.2 ~ H13.3	上田市産学官連携支援施設建設	発掘調査Ⅲ	弥生後期	竪穴住居跡32軒など
⑤ H12.1	福利施設建設	試掘調査	なし	
⑥ H14.4 ~ H14.7	総合研究棟建設	発掘調査Ⅳ	弥生後期	竪穴住居跡9軒など
⑦ H15.4 ~ H15.7	ハンター・ビズネス・ラボ1号棟建設	発掘調査Ⅴ	弥生後期	竪穴住居跡15軒、井戸跡1など
⑧ H20.4	先進ファイバー・統合棟建設	試掘調査	なし	
⑨ H20.8	車庫施設(カーポート)設置	工事立会調査	なし	
⑩ H21.9	平舞山地区再開発計画	試掘調査	弥生後期～古墳前期	竪穴住居跡2軒など
⑪ H21.10 ~ H22.1	ファイバー・イノベーション・インキュベータ棟建設	発掘調査Ⅵ	弥生後期	竪穴住居跡16軒など
⑫ H21.11	境肥会設置	工事立会調査	なし	
⑬ H21.12 ~ H22.1	先進植物工場研究センター建設	発掘調査Ⅶ	弥生後期～古墳中期	竪穴住居跡6軒など
⑭ H22.1 ~	水道本管敷設替え	工事立会調査	なし	
⑮ H22.3	RI棟解体工事	工事立会調査	なし	

※発掘調査を実施した箇所の試掘調査は対象とした。

表2 信州大学繊維学部構内における遺跡調査の経過

第16図 信州大学繊維学部構内における遺跡調査状況



染屋台条里水田跡遺跡 1 (遊技場建設計画)



染屋台条里水田跡遺跡 1 (遊技場建設計画)



染屋台条里水田跡遺跡 1 (遊技場建設計画)



柴屋台条里水田跡遺跡 1 (遊技場建設計画)



柴屋台条里水田跡遺跡 1 (遊技場建設計画)



八幡裏遺跡群 道祖神遺跡 (工場移転解体計画)



八幡裏遺跡群 道祖神遺跡 (工場移転解体計画)



八幡裏遺跡群 道祖神遺跡 (工場移転解体計画)



八幡裏遺跡群 道祖神遺跡 (工場移転解体計画)



中の沢遺跡 (耐震性防火水槽埋設工事)



常入遺跡群 下町田遺跡 1
(信大繊維学部ファイバー・イノベーション・インキュベーター棟建設工事)



常入遺跡群 下町田遺跡 1
(信大繊維学部ファイバー・イノベーション・インキュベーター棟建設工事)



常入遺跡群 手筒山遺跡 (信大繊維学部手筒山地区再開発計画)



常入遺跡群 手筒山遺跡 (信大繊維学部手筒山地区再開発計画)



常入遺跡群 手筒山遺跡
(信大繊維学部手筒山地区再開発計画)



染屋台条里水田跡遺跡 2 (市営多目的グラウンド改修工事)



染屋台条里水田跡遺跡 2 (市営多目的グラウンド改修工事)



染屋台条里水田跡遺跡 3 (集合住宅建設工事)



染屋台条里水田跡遺跡 3 (集合住宅建設工事)



染屋台条里水田跡遺跡 4 (個人住宅建設工事)



常入遺跡群 下町田遺跡 2
(信大繊維学部先進植物工場研究センター建設工事)



常入遺跡群 下町田遺跡 2
 (信大繊維学部先進植物工場研究センター建設工事)



国分寺周辺遺跡群 (個人住宅建設工事)



国分寺周辺遺跡群 (個人住宅建設工事)

報告書抄録

ふりがな 書名	しないせき 市内遺跡		
副書名	平成21年度市内遺跡発掘調査報告書		
シリーズ名	上田市文化財調査報告書	シリーズ番号	第110集
編著者名	中沢 徳士・和根崎 剛		
編集機関	上田市教育委員会 (事務局:文化振興課 文化財保護係)		
所在地	〒386-0025 長野県上田市天神二丁目4番55号 電話0268(23)6361		
発行年月日	平成22(2010)年3月26日		

所収遺跡名	所在地	コード		調査開始日	調査対象及び掘削面積(m ²)	調査の原因
		市町村	市遺跡番号			
① 染屋台糸里水田跡遺跡1	古里字西之手	20203	上田 52	6月1日	14,162 515	遊技場建設計画
② 八幡裏遺跡道祖神遺跡	緑ヶ丘一丁目		上田 76	7月26日	9,000 504	工場移転解体計画
③ 中の沢遺跡	小泉字中沢		上田 321	7月6日	80 30	耐震性防火水情理設上り
④ 常入遺跡群 下町田遺跡1	常田三丁目		上田 57	8月27日	1,308 45	信大繊維学部F1棟建設
⑤ 常入遺跡群 手筒山遺跡	常田二丁目		上田 57	9月8日	20,000 106	信大繊維学部再開発計画
⑥ 染屋台糸里水田跡遺跡2	古里字大塚		上田 52	9月17日	21,000 205	市営多目的グラウンド改修
⑦ 染屋台糸里水田跡遺跡3	住吉字大和町		上田 52	10月1日	892 39	集合住宅建設
⑧ 染屋台糸里水田跡遺跡4	住吉字鶴巻		上田 52	10月26日	180 3	個人住宅建設
⑨ 常入遺跡群 下町田遺跡2	常田三丁目		上田 57	12月5日	400 72	信大繊維学部研究施設建設
⑩ 岡分寺周辺遺跡群	岡分字浦沖		上田 56	12月24日	462 90	個人住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	検出遺構	検出遺物	保護措置
① 染屋台糸里水田跡遺跡1	糸里制遺構	弥生～近世	なし	なし	
② 八幡裏遺跡道祖神遺跡	集落址	縄文～古墳	住居跡ほか	なし	施工時に再協議
③ 中の沢遺跡	散布地	縄文～平安	なし	なし	
④ 常入遺跡群 下町田遺跡1	集落址	弥生～古墳	住居跡ほか	弥生土器片ほか	発掘調査を実施(H21.10～)
⑤ 常入遺跡群 手筒山遺跡	集落址	弥生～古墳	住居跡ほか	弥生土器片ほか	施工時に再協議
⑥ 染屋台糸里水田跡遺跡2	糸里制遺構	弥生～近世	なし	なし	
⑦ 染屋台糸里水田跡遺跡3	糸里制遺構	弥生～近世	なし	なし	
⑧ 染屋台糸里水田跡遺跡4	糸里制遺構	弥生～近世	なし	なし	
⑨ 常入遺跡群 下町田遺跡2	集落址	弥生～古墳	住居跡ほか	弥生土器片ほか	発掘調査を実施(H21.12～)
⑩ 岡分寺周辺遺跡群	集落址	古墳～平安	住居跡ほか	なし	盛土により遺構保存

要約	上田市内において10ヶ所の埋蔵文化財包蔵地で試掘を実施した。上田バイパス第2期工事竣工に伴い、染屋台糸里水田跡遺跡で住宅や商業施設関連の試掘調査件数が増加している。
----	--

上田市文化財報告書 第110集

市内遺跡

平成21年度市内遺跡発掘調査報告書

発行 平成22年3月26日

発行者 上 田 市
上田市教育委員会

印刷 一喜堂印刷
